

水戸観光コンベンション協会会長賞

「水戸学と明治維新の関わり」

常磐大学高等学校 1年 長山 怜史

目次

序章 動機と課題設定

第1章 水戸学という学問

第2章 他藩士との交流

第3章 吉田松陰と弟子達

終章 今後の展望

序章 動機と課題設定

私は明治維新から150年が過ぎた今日、「水戸学」が明治維新の原動力になっていて「水戸学」に吉田松陰が深くかかわっていることを考察した。そして「水戸学」と吉田松陰や志士達の関連性を調査することにした。

まず第1章では、「水戸学」とはどのような学問なのかを分析していく。

第2章では水戸藩と他藩士の交流を当時の水戸の学問の事情を吉田松陰の記録を踏まえて、考察していく。

第3章では、吉田松陰が水戸に受けた影響、松陰の遺志を継いだ弟子達の活動から「水戸学」の思想がどう維新につながっていったかを分析、考察していきたい。

そして終章では、今後の課題と展望を論じていく。

第1章 水戸学という学問

本章ではまず、「水戸学」という学問がどのようなものか説明していきたい。地域の歴史の資料を読んだり、歴史博物館を訪れたりすると「水戸学」というワードを目にしたたり、聞いたりすることがあると思う。「水戸学」とは、常陸国水戸藩で形成された政治的学問だ。儒学思想を中心に国学、史学、神道を結合させたものである。二代水戸藩主徳川光圀が編纂を始めた「大日本史」を中心とする前期水戸学と九代藩主徳川齊昭が設置した藩校・弘道館を中心に展開された後期水戸学に分かれる。

「水戸学」には、「尊王」と「攘夷」の思想が含まれている。

第2章 他藩士との交流

記録によると、幕末期に多くの他藩士が水戸を訪れたようだ。

水戸は「水府」とも称され、その学問は「水戸の学」「水府の学」と称された。

特に会沢正志斎（1782～1863 水戸藩士）が著した『新論』の影響は大きく、水戸の会沢正志斎が営む「南街塾」は他藩からの留学生で大いに賑わっていた。水戸はまさに他藩士たちの憧れの的であったのだろう。水戸はその他藩士たちを会沢正志斎、豊田天功などを中心に温かく迎え入れた。

このような記録から水戸は他藩士にとって知識人から多くのことを学べ、温かく迎え入れてもらえるという点で、とても良い地だったと思う。

吉田松陰が東北遊学の途次ひと月に及ぶ水戸滞在を「水府の風、他邦の人に接するに歓待はなほだ、渥く、勸然して欽びを交え、心胸を吐露して隠匿するところなし。会々談論の聴くべきものあれば、必ず筆を把りて之を記す。」と感嘆を記している。(仲田、2015) この記録から、吉田松陰が水戸遊学にどれほど感嘆したかをうかがうことができる。

第3章 吉田松陰と弟子達

本章では吉田松陰が水戸に受けた影響と、彼の遺志を継いだ弟子達の活動から「水戸学」がどのように関わっていったかを論じていきたい。

私はそもそも吉田松陰がここまで国学に目覚めたかを知りたくなり調査した。松陰が国学に目覚めたのは実父杉百合助による庭訓であった。それが「新論」である。父百合助は、自ら『新論』を手移して松陰に示していた。また、松陰を教育していた叔父の玉本文之進も水戸派の学書を熱愛していた。この教育により松陰は国学に目覚めたのだと考察する。

松陰は松下村塾を開き、多くの志士を育成した。その中には、後の初代内閣総理大臣となる伊藤博文、奇兵隊を組織する高杉晋作、禁門の変で兵を率いる久坂玄瑞などがいた。吉田松陰は、井伊直弼による安政の大獄で処刑されてしまうが、遺志は門弟が継いでいく。

高杉晋作は藩の命令で上海に留学し、アヘン戦争に敗北後半ばイギリスの植民地状態の清の現状を知り、帰国後伊藤博文らと共に江戸品川のイギリス公使館を焼き討ちにする。久坂玄瑞は、下関を通過する外国船に砲撃した。伊藤博文は、公使館焼き討ち後、イギリスに留学し「開国」の考えとなる。高杉晋作や伊藤博文はその後クーデターを起こし藩論を変更させ、倒幕に進んでいく。

終章 今後の課題・展望

本文では明治維新の原動力には水戸学の思想が大きな役割を担っていることを吉田松陰や志士達の水戸遊学や会沢正志斎が著した『新論』を用いて論じていった。本文では長州藩士と水戸学や尊王攘夷運動の関わりを中心に説明していったが、今後は長州藩以外の藩士と水戸学の関わりや水戸藩士と他藩士との交流を分析、考察する。

明治維新から150年の2018年は幕末の動乱、戊辰戦争などの出来事をもう一度学び直し、先人たちの偉業や人生を調査し、そこから新たな発見をしたい。

参考文献

- ・ 仲田昭一 (2015) 「吉田松陰と水戸」 錦正社
- ・ 寺内義興 (2008) 「水戸の教育」 二鶴堂印刷所
- ・ 名越時正 (1992) 「水戸学の達成と展開」
- ・ 肥後和男 (1968) 「水戸学と明治維新」